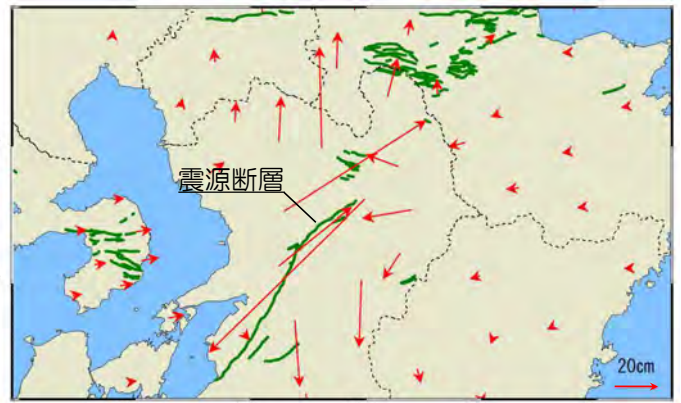


基準点測量成果改定

■目的

大きな地震が発生すると、地面は大きく複雑に変動するため、地震の前に正確に測量された基準点の成果（緯度、経度、標高）もその影響を受け、測量の基準として使用できなくなります。

地震後、速やかに**基準点の成果を改定**することは、道路などの復旧工事の実施や土地取引のための地図の修正など、震災からの復旧・復興を実現するために不可欠な事業です。

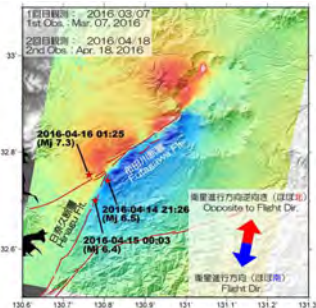


平成28年熊本地震による地面の変動
震源断層を境に様々な方向に最大約1m変動しています。

■成果改定の流れ



人工衛星を利用して変動の範囲や大きさなど概要を把握。



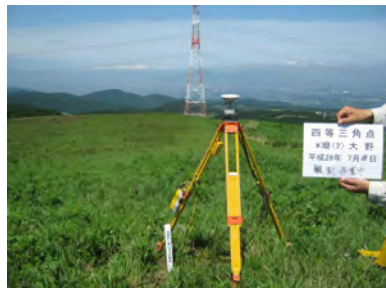
人工衛星画像で断層と変動量の概要がわかる

迅速かつ合理的な成果改定手法を決定。



地震直後のGNSS測量

現地測量を実施。



三角点の位置を求める水準測量



標高を求める水準測量

測量結果から新しい成果を算出。

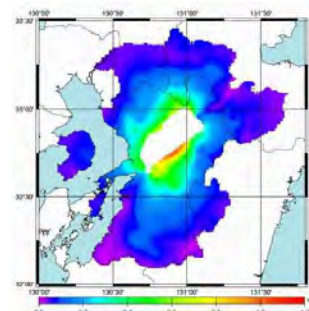


水準点の新成果

成果改定と公表。



HPに随時掲載



測量していない三角点の成果を算出できる補正パラメータの作成・提供

■利用

成果改定された基準点は、道路などの復旧工事や復興計画の策定、土地取引のための測量や地図の作成など、震災からの復旧・復興の様々な場面で利用されています。



道路・河川等の復旧工事



復興計画の策定



土地取引



地図作成

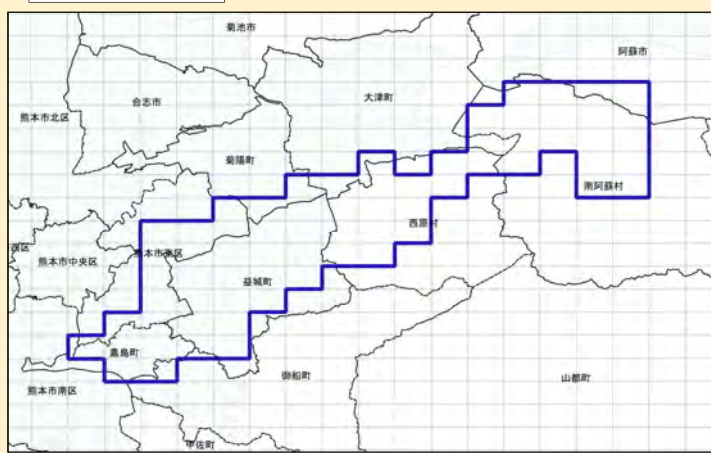
最新地図で熊本地震被災地の復興加速(応急復旧対策基図)

■目的

平成28年熊本地震においては、広範囲にわたって土砂崩壊、建物倒壊、橋梁崩落等の被害が発生しました。国土地理院は、甚大な被害が生じた地域204km²について応急復旧対策基図を順次作成し、応急対策や災害復旧事業を実施する国や地方公共団体等に提供しました。

■応急復旧対策基図の概要

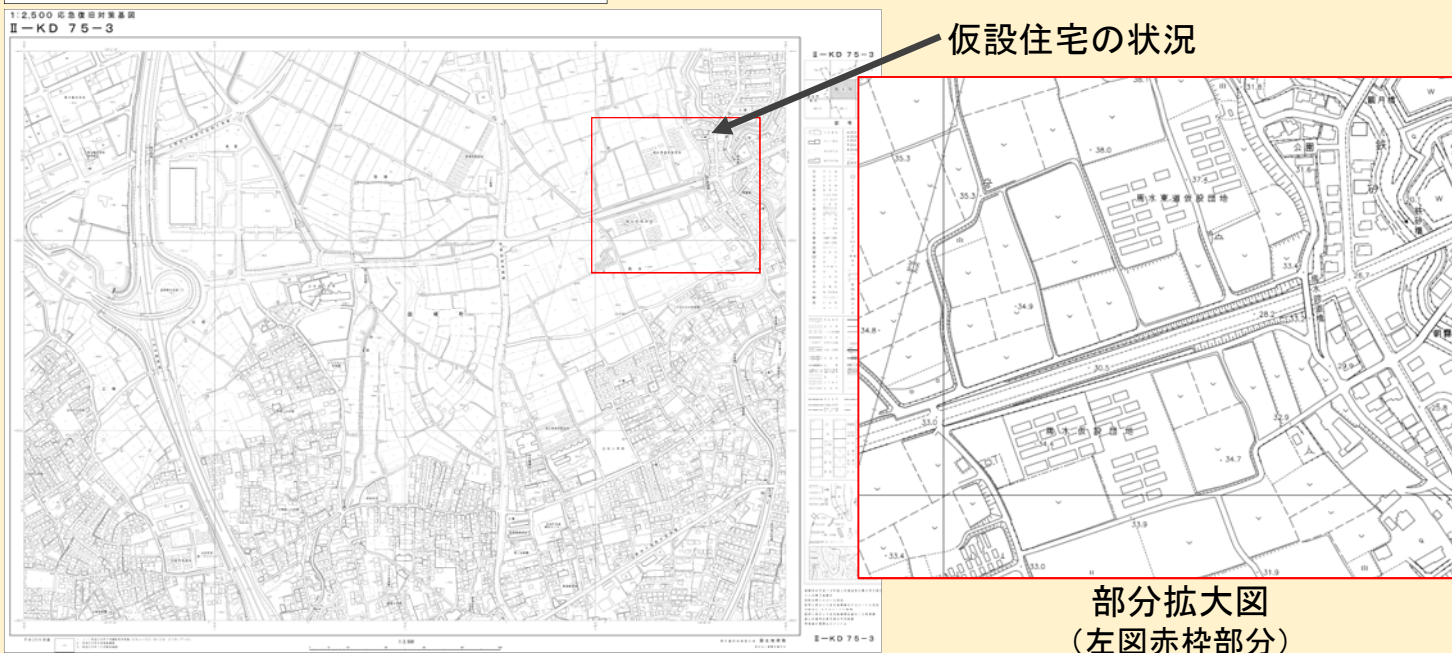
整備範囲



特徴

- ①震災後に撮影した空中写真を基に、現地調査を実施して最新の地図にしています。
- ②公共事業に用いられる標準フォーマットの数値地図で提供しています。
- ③12月22日より一般の方にも提供しています。

応急復旧対策基図の印刷イメージ



■活用方法

復興事業に地域の現況を表す地図が無いと、現在どのようになっているか？これからどのように復興させるべきか？などの計画を立てるうえで困ります。そこで、公共事業に使われる標準フォーマットの地図を提供することで、誰でも入手可能となり、利用者が増えることから、さまざまな分野で利用が進み、より一層復興事業が進みます。